

2019年10月13日(日)朝10:10～
10月第2共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第19、消防訓練等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**平和の使者**(13～ 節)

聖書：マタイ 10章11～15節

<口語訳>

新約聖書14～ 頁

マタイ 10章11～15節

<新共同訳>

新約聖書17～ 頁

マタイ 10章11～15節

<新改訳第3版>

新約聖書17～ 頁

マタイ 10章11～15節

<塚本訳>

新約聖書93～94頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日の**マタイ1:11～15**は、主が**平和の使者**(13節)を遣わされる時の心得を示しておられる箇所です。
 - ⇒「**平和**(13節)」は、「平安」と、翻訳されていますが、新共同訳だけが、「**平和**」と、翻訳し、**神**が与えることのできる最大の賜物であることを表現しておられるのです(**OA師**)。
 - ⇒イスラエルでは、ヘブル語で「シャローム」は、挨拶ことばで、朝、昼、夜とも、同じですが、主は、挨拶のことばとして用いられたのではなく、**神の御子の血**によって、完全に罪から清められ、神の呪いにしか値しない汚れと死の塊が、輝く聖なるものに作り変えていただける、これが神がくださるシャローム、本当の平和です(**OA師**)。
 - ⇒「**12使徒の派遣**」は、「**神の平和**」のためです。

本論；

◇本日、**マタイ書10章11～15節**から主の**使信**に**思い・心**vousをとめます。

◆**マタイ10章11～15節**；使徒**マタイ**は、**天の国・神との和解**を宣べ伝える使命を与えられて、主の12弟子たち、12使徒たちは派遣された(7, 13)のだと語ります。

◇**11～15節**；塚本訳◆**伝道の心得**

「11 町なり村なりに入ったら、そこで然るべき人を捜して、(その土地を)立ってゆくまではその家に泊まっておれ。

12 家に入ったらば、まず平安を祈れ。

13 もしその家が(その祈りをうけるのに)ふさわしければ、あなた達の(祈った)平安はかならずその家に臨み、もしふさわしくなければ、その平安はあなた達にもどってくる。(そしてあなた達のものとなるのである。)

14 しかし人があなた達を歓迎せず、あなた達の言葉に耳をかたむけないなら、(すぐ)その家なり町なりを(出てゆけ。そして)出てゆくとき、(縁を切った証拠に)足の埃を払いおとせ。

15 アーメン、わたしは言う、(最後の)裁きの日

には、あの(墮落町)ソドムやゴモラの地の方が、まだその町よりも罰が軽いであろう。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

- ◇ **11～15節** ; 「『町なり村なりに入ったら、そこで然るべき人を捜して、(その土地を)立ってゆくまではその家に泊まっておれ(11)。家に入ったらば、まず平安を祈れ(12)。もしその家が(その祈りをうけるのに)ふさわしければ、あなた達の(祈った)平安はかならずその家に臨み、もしふさわしくなければ、その平安はあなた達にもどってくる。(そしてあなた達のものとなるのである。)(13)しかし人があなた達を歓迎せず、あなた達の言葉に耳をかたむけないなら、(すぐ)その家なり町なりを(出てゆけ。そして)出てゆくとき、(縁を切った証拠に)足の埃を払いおとせ(14)。アーメン、わたしは言う、(最後の)裁きの日には、あの(墮落町)ソドムやゴモラの地の方が、まだその町よりも罰が軽いであろう(15)。』」**「神の御子イエス・キリスト様」**は、「『天の国は近づいた』」と宣言し、「『**神との和解**』」の「始まり」を告げて下さいました。

◆「町なり村なりに入ったら、そこで然るべき人を捜して、(その土地を)立ってゆくまではその家に泊まっておれ(11)。家に入ったらば、まず平安を祈れ(12)。もしその家が(その祈りをうけるのに)ふさわしければ、あなた達の(祈った)平安はかならずその家に臨み、もしふさわしくなければ、その平安はあなた達にもどってくる。」と、「**12使徒の派遣**」で伝道の心得は、①「まず平安(**平和**)を祈れ(12)」です。「**神との和解**」が受け入れられることを祈れということです。**神への信仰告白**を迫ることが第1ではないことが分かります。

⇒上からの目線は、主の権威から来ている、無言の圧力・権力を相手に与えます。

⇒相手と対峙するのではなく、**神の前**にともに跪く気持ちで祈る、「**神との和解**」を求めるのです。

◆「しかし人があなた達を歓迎せず、あなた達の言葉に耳をかたむけないなら、(すぐ)その家なり町なりを(出てゆけ。そして)出てゆくとき、(縁を切った証拠に)足の埃を払いおとせ(14)。アーメン、わたしは言う、(最後の)裁き

の日には、あの(墮落町)ソドムやゴモラの地の方が、まだその町よりも罰が軽いであろう(15)」と、②「(縁を切った証拠に)足の埃を払いおとせ」です。

⇒これは、耳を傾けない人に絶縁を宣言することではなく、「けじめ」をつけることを主はお求めなのです。

⇒特に、「**御子イエス・キリスト様**」にとって、日々迫ってくる終わりの時、十字架の死が近づいていました。

⇒むしろ、主の弟子たちが成功することも大事ですが、挫折して、「**御子イエス・キリスト様の助け**」を求め、祈ってほしかったのです。

⇒この伝道の心得の原則は、今も変わりません。

⇒主の弟子たちが、癒しや奇蹟をなす「**主の権威**」を託されたのは、「**御子イエス・キリスト様**」が、短時間に果たすべき職務を持ち、弟子たちを伝道による『**収穫**(かりいれ)』(「**神との和解**」)のための「**平和の使者**(13節)」とされ、『**天の国は近づいた**』と宣言させるためでした。

⇒弟子は、伝道の厳しさも学ぶ必要があった。

- ⇒ルカ、マルコによれば、「足のちりを払う」ことは（マルコ6:7～13、ルカ9:1～6）、「抗議のしるし」でしたが、「証明する」必要があったことが、同時に記録されています。
- ⇒さばきの日には、「ソドム」、「ゴモラ」よりも、厳しいさばきが臨むのです。「あの（墮落町）ソドムやゴモラの地の方が、まだその町よりも罰が軽い」と言われるほどですから、終わりの日のさばきは、人知を超えたものです。
- ⇒神なきに賭けた人生は、すべてを創造し、支配しておられる神を知らずして無視しているのですし、福音を聴きながら、神のもとに帰らないのは、もっと大きな罪になるととを終わりの日のさばきは告げているのです。
- ⇒神の恵みは、人間の想像を超えたものであるように、無視の罪は、大きいのです。
- ⇒**SY師**は、「わたしたちは、キリストの弟子として、このおごそかな責任を覚えつつ伝道しているでしょうか。リクエーションのように気楽にして、無責任な伝道していないで しょうか」と、問うておられます。
- ⇒私たちは、信仰に生きた先輩の遺産に生きる。

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。

◇本日の**マタイ1:11～15**は、主が**平和の使者**(13節)を遣わされる時の心得を示しておられる箇所です。

⇒「**平和**(13節)」は、「平安」と、翻訳されていますが、新共同訳だけが、「**平和**」と、翻訳し、**神**が与えることのできる最大の賜物であることを表現しておられるのです(**OA師**)。

⇒イスラエルでは、ヘブル語で「シャローム」は、挨拶ことばで、朝、昼、夜とも、同じですが、主は、挨拶のことばとして用いられたのではなく、**神の御子の血**によって、完全に罪から清められ、神の呪いにしか値しない汚れと死の塊が、輝く聖なるものに作り変えていただける、これが神がくださるシャローム、本当の平和です(**OA師**)。

⇒「**12使徒の派遣**」は、「**神の平和**」のためです。

⇒**SY師**が、書いておられるパンセの著者パスカルのことばを紹介します。

⇒「神ありと信ずる信仰と、神なしとする不信仰とを賭にみたてて、神ありとかける場合について申しました。『もし君が勝ったならば君は一切を得る。もし君が負けても君は何も失わない。それゆえ、ためらうことなく、神があるという方に賭けたまえ』(1923～62年のフランスの数学者・物理学者・キリスト教思想家。特に未完成の『パンセ(瞑想)』(1670年刊)が有名、『パンセ』233頁参照)。

⇒主のことば【塚本訳】Ⅱコリント2:15～16:

15 というのは、わたし達は救われる者の間でも、滅びゆく者の間でも、神にささげられるためのキリストのよい薫である。

16 ある者には、死から死へみちびく薫であるが、ある者には、命から命へみちびく薫りである。(ああ、) 一体だれにこんなことが勤まろう。